生きることの地獄と極楽

武田泰淳対話集

生きることの地獄と極楽

武田泰淳対話集

著者紹介

1912年　東京に生れる
1932年　東京大学文学部中退
著　書　「司馬遷」「武田泰淳全集」
　　「富士」「上海の螢」他

生きることの地獄と極楽

1977年2月25日　第1版第1刷発行

©著　者　武田泰淳（たけだ たいじゅん）

発行者　井村寿二

発行所　株式会社　勁草書房
東京都文京区後楽2—23—15
TEL(03)814—6861
振替 東京 5—175253

印刷所・浩文社，製本所・和田製本
0095—859200—1836

落丁本・乱丁本はお取替いたします。
＊定価はカバーに表示してあります。

目

次

I

文学と宗教と人生……対話者　加藤　周一　3
生きることの地獄と極楽……真継　伸彦　22
檀一雄の世界……立原　正秋　46
元気の出る小説……古井　由吉　74

II

大陸を駆ける夢……青地　晨　115
軍隊と文学的出発点……埴谷　雄高　145
ロシア体験と中国体験と……内村　剛介　160
中国がほんとに考えていること……西園寺雪江　205

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

せまられて梁山に登る……野村　浩一　220
戦争と中国と文学と……竹内　実　245
亡命者の運命……開高　健　258

Ⅲ

東洋の知恵……山本　健吉　275
新しい価値観を求めて……桑原　武夫　288
初出一覧

題字　柏原　禾煌

I

文学と宗教と人生

加藤周一
武田泰淳

やはり日本は暮らしいい

加藤　（入ってきた武田氏のからだを気づかうように）元気そうですね。

武田　いや、そうじゃないんですよ。目まいがしてね。こういうときは薬のんでくるんです。漢方の気つけ薬みたいなもの。そうするともつんですけど、頭が全然働かないんですよ。脳血栓なんです。脳軟化症の一歩手前なんですね。これは直らないらしいですね。

加藤　脳血栓は直りにくいですね。でも手とかにしびれはないのですか。

武田　しびれはないです。足のほうがいつまでたってもあったまらない。

加藤　このまえお目にかかったときはたしか中国の話でしたね。一年半くらいまえでしたかね。

武田　あのときも病後でしたね。もう近ごろはあまり人に会わないようにしてるんです。今度はドイツからお帰りになってどのくらい。

加藤　十五か月くらいいます。最近十年間では記録的に長いんです。これまでは一年以上いたことがない。でも、一年以上いるとやはりずいぶん強く感じることが多い……。

武田　つらく……。

加藤　そうじゃない。暮らしいいですよ。日常生活では物価がむやみに高いのと、交通が困難なこと、音がうるさい、そういうことはありますよ。しかし、人がいいです。当たりがやわらかくて……。日本人は気が立っているような気がする、という印象を日本へ帰ってきて受けた人がいるらしいんですが、私はちっともそういう感じを受けたことがありません。今度も受けないな。日本人はやさしいとまではあえていわないけれど、当たりがやわらかいですよ。

武田　そうかもしれないな。だけどちょっと声や何かが大きいということ……。

加藤　日本人がですか……。そんなことないですよ。日本人は比較的静かな声で話す。料理屋、飲屋などでも、ほかのテーブルで人が話しているとき、わりに静かだという気がしますね。ドイツでも、アメリカでも大変うるさい。一人のやつがどなり出せば隣のやつは自分たちの会話がよく聞こえないから、大きな声で話し出すでしょう。そうするとだんだん両側が大きくなって、しまいにはどなり合うことになってしまう。これも疲れる理由ですね。

武田　さきほどの日本の音がうるさいといわれたのは自動車のことなんですか。

加藤　いや、うるさいといったのは音楽です。これは東南アジアの他の国と比べてというよりも、

西洋と比べてうるさいですね。喫茶店の音楽にしても、どならないと話が聞こえない。

武田　テレビはどうですか。うるさいと思わない。

加藤　さほど感じないかな……。

武田　十二ものチャンネルがあって絶えず音楽やってる。

加藤　テレビは最近買ったので、どんなにうるさいかじつは知らなかった。でも、日本のテレビは久しぶりに見るととてもおもしろいですね。とくに広告はそうですね。おもしろい……。

武田　テレビの番組の内容はすぐに忘れてしまうけどコマーシャルは不思議に覚えている。〝じっとがまんの子であった〟とか……。

加藤　でも、ともかく総体的に暮らしいいですね。人の当たりはいいし、第一日本語だから……、人のいっていることが苦労しなくてもみなわかる。

武田　加藤さんでもそうかな。加藤さんはフランス語やドイツ語で考えたほうが楽だろうと思うけど……。

加藤　そんなことはない、逆ですよ。

武田　そうかなあ……。

パスポートなくしたってのはインドでしたかね。

加藤　ぼくが……。

武田　そうか、インドに行ったときパスポートなくしたら大変だ、といったんだ。つまり、日本人の感覚ではパスポートなしでもいいと思ったけども、ということだったな。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

加藤　フランスでもパスポートなくしたら大変だ。警察にとめられることになる。でも、若いアメリカ人が東京で道を歩いていたら、何も悪いことをしていないのに「パスポートを見せろ」とつぜん警察にいわれたらしい。日本でも最近はきびしいようですよ。

武田　そうですかね。加藤さんはどこの国に最初にいったんですか。

加藤　最初がフランスです。それからスイス、ドイツ、オーストリア、イタリア、ベルギー、オランダ、それから英国へ行ったんです。その後日本に帰り、次にソ連へいきました。それからユーゴスラビア、インドを回り、また日本に帰ってきました。またかなりたってアメリカに初めていきました。合衆国、メキシコ、カナダ。最後に中国に行きました。

武田　大学はどこがいちばん初めですか。

加藤　教えたのはカナダの大学が最初で、研究所にいったのはフランスが最初です。その次がちょっと短いのですが、合衆国の大学で講義しました。その後、ミュンヘンにいきました。

武田　今はベルリン自由大学……。

加藤　いえ、今は大学の職なしです。久しぶりに教師職は休みで、今はもっぱら作文に専念しています。『日本文学史序説』に打ち込んでいます。

武田　現代までくるんですか、荷風まで……。

加藤　いや、武田泰淳まで、あるいはもっと若い世代にまでくるかもしれません。

武田　そのころはおれは死んじゃってるな……。

加藤　……。

外国では小説だけでは暮らせない

武田　マチネ・ポエチック（注）の運動といったものはヨーロッパにもありますか。

加藤　文学者のグループ活動はありますね。話は少しちがうけれど英米ではわりあい小説家というものが今でもいますね。ドイツやフランスでは少ない。小説のほかにも仕事をもっていて、何でもする。ですから、作家はいるけど、詩人とか小説家とか劇作家と分かれている人が少なくなって、みんないろんなことをする。昔からそういう傾向はあったけども、近ごろはことに著しいように思う。

武田　そうですか、小説だけを書く人はそんなに減っていますか。

加藤　ジードのころは小説が表芸みたいなところがあった。しかし、今では小説が表芸で影響力の大きな作家は少なくなったと思います。

武田　でも、詩とか評論では食えないでしょう。

加藤　小説だって食えない。食える人はもうきわめて少数の人です。小説家が食えるのは日本とソ連だけでしょう。ただし、ソ連も作家同盟に入っていればです。

（注）昭和二十一年から二十三年にかけて活発な活動をみせた戦後詩人のグループ。中村真一郎、加藤周一、福永武彦らを中心とした。従来の自由詩に反対、マラルメ、ヴァレリイに範をとる韻をふんだ厳密な定型詩をモットーとした。現在は活動は下火になっている。

武田　つまり、小説家にとって日本は天国なんだな。

加藤　そうです。

武田　あの連載の第二回めぐらいかな、小説の氾濫に対して、芸術というものは違うところからもっと出てきていて、そして、やたらに出てくるもんじゃない、とかなりはっきりいっていたんじゃないかな。

加藤　文学に関しては、日本には「ギルド」的なものがあるようですな。詩とか評論とかを含めてのことですが。一種の小説家社会というものがあって、大体自分の生活経験を書いて、それでギルドに入れられれば何とか暮らしていける、とにかく商売としてね。こういう組織はフランスとかアメリカにはない。小説だけでは暮らせない。ノーマン・メイラーといったような人は別格ですよ。

武田　だから、あなたの議論でおもしろいと思ったのは、自然主義に対する一種の批判だな。つまり、日本の古典に興味をもたない人は外国文学に対しても興味をもたない。逆もまたしかりということで、自然主義の作家は幸か不幸か、体験を自己表現すれば現実になるという考え方にとらわれていた。

加藤　西洋の文学の影響を受けた人と日本の古典が好きな人と二つに分けて考えるのはおかしい、ということをいいたかった。「自然主義」の文学者は日本の古典の影響をうけていない。「私」の経験を現代の日本語で、町でしゃべっている日本語で率直大胆に書き表わせば、これがおのずから小説になり、文学につながるという「自然主義」の立場というか、哲学でいけば、古典に意識的に学ぶ必要はない。つまり、意識的には作家が江戸時代までの日本の文学の伝統から切り離されてい

る。しかし無意識的には、日常的経験の尊重ということ自身が、日本文化の伝統だろうと思う。「自然主義」はその意味では最も伝統的な文学ですね。まさに当の作家自身がもっとも遠く伝統から離れていると考えていたときに、ですが……。

武田　もう一つ関心ひいたのは、夫婦げんかで奥さんがおこってその怒りを示すために皿を投げて、こなごなにくだける場について、それは自己表現としては完璧なわけで、それほど直接的な感動というか、衝動は表わされていないはずだと、たしかそういってますね。それから高速道路の自動車事故のときのショックを受ける、そういうショックはバッハかモーツァルトだったか、音楽から受けるはずがない、そういうことはわかりきったことであるけれども、何かそういう芸術的ショックを与えなければ困る、本物でないという考え方は、おそらく、加藤さんにとっては反対なわけですね。そういう立場をとれば芸術家といえなくなってしまうから……。

サドは一種の裏返しキリスト教

加藤　夫婦げんかで皿をたたき割るのは、英語でいえば「ハプニング」ですね。「ハプニング」が芸術の一種だ、というのはじつに芸術ということばの広い解釈です。何もかも芸術だという人もいるようで、それはそういってもいいのですが、ことばの経済からいえば、その中に入るものと、入らないものがあったほうがものを考えやすいと思う。直接的な意味での感動の強さは芸術のありがたみの尺度にならない。それは音楽だけではなくて、シェークスピアの芝居見てハムレットが殺

されたといったって、目の前で子供が自動車にひかれるほど衝撃を受けませんよ。強さからいえば比べものにならない。

武田　カーテンコールがあって出てくるとお客さんが満足するわけだから……。うちの子供がね、まだ小学校一年生のころ、椎名（麟三）さんの芝居を見て、毒薬飲んで死ぬ場面がある、そうすると席から立って幕をあけて、ほんとうに死んだかどうか見てたことがあります。

加藤　でもかたき役になるとみんなに憎まれるということはあると思う。相手がおとなでも。

武田　よくかたき役とかなんかをがまんしてできると思うな。悪役でもね、優秀な悪役で、リア王みたいに舞台をぜんぶまわす原動力になっている人はいいですよ。ちょっと出てきて、悪殿さまとかなんとかって、すぐ切られる。いつでもそればかりやっている人はえらいと思うな。

加藤　一般に、役者と役をあまりはっきり区別できないから。だから、いい役のやつはかならずいい役になる。それはね、そうしておいたほうが便利なこともある。役者がうまくてもへたでも、話を初めから見なくても、あいつが出てくればいいやつにきまっているんだから、どっちが善玉か悪玉か考えなくてもわかるでしょう。

武田　大川橋蔵が出てきたらもうまわりはぜんぶ悪人ですね。橋蔵に味方するやつだけが善人だと。だからわかりやすい。酔っぱらって見てても、橋蔵が悪人になるはずがない。しかし、シェークスピアの俳優でイギリスの有名なサーナとか、ローレンス・オリヴィエという人は、善玉、悪玉両方できる。〝せむしの王さま〟もやるし〝ハムレット〟もできる。

加藤さん、シェークスピアの中で何をおもしろいと思いますか。

加藤　やり方にもよるんでしょうが、いちばん最近見ておもしろかったのは「真夏の夜の夢」ですね。「十二夜」もいいですね。それから、いろんな解釈をして楽しむという意味では「オセロ」「マクベス」です。

武田　シェークスピアの研究というのは各国で自分たちが真に理解している、というぐあいで、国家的な芸術的常識というものをいかにもっているか、ということをためす一つの試金石みたいになっているらしい。

加藤　その点ではドイツとロシアがいちばん熱心ですね。ドイツ人はシェークスピアをドイツの古典だという。

武田　ブルックという人はどこの人でしたかね。

加藤　ピーター・ブルックは英国人です。〝マラー・サド〟なんていうピーター・ヴァイスの芝居もやった。

武田　映画にもなった。

加藤　あれはマラーとサドとの対立ですよ。マラーは歴史の中にいる人で、サドは歴史の外に出てしまった。サドがその立場から見れば、マラーはだめだといっても、マラーは降参しない。なぜならサドも歴史の中の一つの存在にすぎないから。マラーがサドをやっつけようと思ってもサドは降参しない。なぜならマラーといえども一人の人間でその一生は短いので、それをどう生きていくかという問題は歴史に還元されないから、というので、その二つの対立を描いた作品ですね。戦後の傑作の一つだな。そういうことはキリスト教と関係あると思うね。サドは一種の裏返しキリスト

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.